

# What IS IT?

ISIT: Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

編集 ISIT総務広報部 龍 督茂

## INDEX 今号の主な内容

- 「九州から世界へ 福岡発の先端技術」 福岡県下産業支援3財団座談会…………… P1
- 2015年 旭硝子財団 助成研究発表会への参加…………… P4
- 「BODIKワークショップ」始動…………… P4
- 新職員の紹介…………… P5
- インターン受入…………… P5

## ISIT 新海研究所長、ふくおかIST 梶山理事長、FAIS 國武理事長、「九州から世界へ 福岡発の先端技術」と題し、鼎談実現

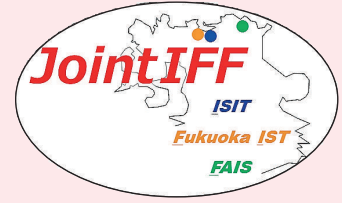
平成27年8月31日

平成27年8月31日、公益財団法人九州先端科学技術研究所（ISIT）の新海 征治研究所長、及び公益財団法人福岡県産業・科学技術推進機構（ふくおかIST）梶山 千里理事長、公益財団法人北九州産業技術推進機構（FAIS）國武 豊喜理事長による鼎談が、「日刊工業新聞社100周年記念座談会」として、福岡市内のホテルで行われました。

3財団は、それぞれ設立母体が福岡市、福岡県、北九州市と異なり、3財団の実質的トップ（ISITの理事長は非常勤の貫 正義氏）が一同に集まり、鼎談を行うことは初めてのことです。これは3名が、九州大学・大学院で高分子化学を研究した同門であることから実現したもので、鼎談に留まらず、既に3財団共同で展示会への出展やセミナーの開催を実現しています。

鼎談の中でも、それぞれの財団は特色を持っており、また、設立の経緯・目的は異なるものの、3財団が互いに切磋琢磨するにとどまらず、互いの強みを発揮しながら、連携することにより相乗効果を高めることの重要性を強調しています。

鼎談実現に先立ち、3財団の英語の頭文字から、3財団連携を「IFF」と名付け、共同事業「Joint IFF」として今後様々な事業を展開していく予定です。



### 「日刊工業新聞社100周年記念座談会」 (平成27年9月30日 日刊工業新聞より)

## 九州から世界へ 福岡発の先端技術

- 司会** まずは自己紹介と財団の紹介をお願いします。
- 梶山** 父が国家公務員だったため、九州のいろいろな場所を経験した。九州大学で修士を、米国で博士課程を修了した。九大時代の恩師は高分子化学の世界的権威だった故高柳素夫先生で、多くの科学的興味を教えていただいた。九大総長を経て、2014年4月から福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかIST）の理事長を務めている。ISTは設立当初から関わりが深い。「シリコンベルト福岡（福岡先端半導体開発拠点構想）プロジェクト」をはじめ、九大発の産学連携大型プロジェクトを進めてきた。
- 國武** 米国留学時代を除いて、ほぼ40年間を九大で化学研究に費やした。高柳先生には私も大変お世話になった。北九州市の末吉興一前市長が、産業都市・北九州には頭脳の蓄積が足りないと考え、90年代半ばに学術研究都市を開設することを決めた時に要請されて協力することになり、北九州との関係が深まった。環境と情報をキーワードに、旧北九州大学（現北九州市立大学）が国際環境工学部を設けることになったためそこで副学長となり、その後北九州産業学術推進機構（FAIS）の理事長に就いた。FAISは産学連携に関する事業やコーディネートを責務としている。北九州は過去には素材や加工が産業構造で大きなウエートを占めていたが、今は設計やサービス、メンテナンスが重要になっている。加工・組み立てだけではアジア各国に追い抜かれてしまう。どうサポートしていくかが使命であり課題だ。
- 新海** 九大や長崎大学、米国の大学を経て、九大に戻り機能有機化学や高分子材料化学などを研究した。08年の退職後に福岡市長から九州先端科学技術研究所（ISIT）の所長職を要請されたので、研究環境を提供していただくことを条件に引き受けた。ISITは95年に設立して今年20周年。設立当初は情報技術の大変革が起きており、IT技術者が300万人不足すると言われた時代。設立理念は研究開発を通じて地元企業の技術開発力向上とそれによる新事業創出だった。九大の伊都キャンパス（福岡市西区）移転に伴い08年にナノテク研究室を、12年には有機光デバイス研究室をそれぞれ開設するなど、材料研究も強化している。研究スタッフが充実しているのも当財団の特徴だ。

現在は五つの研究室があるが、研究と支援両部門を持っているので、新産業・新事業の創出支援を効率的に行うことができる。産業界と連携し、地方創生につながるビッグデータやクラウド、情報セキュリティなども得意分野だ。

**司会** 先端産業が花開いている福岡県ですが、その強みはどこにあるのでしょうか。首都圏から離れた立地はメリット、デメリット双方あると思うのですが。

### 有機ELは一大産業に発展する（梶山 ふうおかIST理事長）

**梶山** 福岡の人口は500万人ほどだが、これは人が動きやすいほどよい数字。東京と離れていることでまとまりやすい点も優位だ。ただ企業の研究部門が少ないため、大学の研究をどれだけ行政や企業とつなぐかが課題になる。半導体や有機EL（エレクトロ・ルミネッセンス）が代表例だが、特に有機ELは一大産業に発展する可能性を秘めている。今後は基礎から応用へと進める段階にあり、ISTが積極的に関与できる関係にある。一大研究拠点の九大で人材を育て、育てた人材を地元へ引き留める工夫をしなくてはならない。自然や歴史が豊かで生活しやすい、教育機関が充実し、国際化も進んでいる。産業を興しやすい適切な地といえよう。

### モノづくりに創造やサービスを（國武 FAIS理事長）

**國武** 人が快適に暮らすことができる気候や風土は確かに有利だ。福岡も北九州も山あり海ありの風光明媚（めいび）な地かつは素材加工を中心に産業強化を図ってきたが、最近はサービスやデザインのウエートが高まり、素材加工産業が情報発信の有効な手だてではなくなっている。だが製造業の弱い国が衰退するのは明らか。モノづくりの力は維持しながら、クリエイティブな力とサービス、情報技術を付け加えていけばまだまだ伸びる余地はある。ただ学生の7割以上は関東に就職を希望するので、人材の地元定着が課題だ。

**梶山** 地域創生を軌道に乗せたい。

**國武** 内閣が作った人口・産業動態を解析するデータベースを使えば、キメ細かい取り組みが可能になる。政治も従来のスローガンだけから変化している。他地域に負けない工夫が要求されている。

**司会** 小規模な自治体では努力に限界があります。

### 多様性をシステム化してハブに（新海 ISIT 研究所長）

**新海** 首都圏から離れた強みを逆に生かしてハブになれる。東京近郊の都市では無理だ。福岡県は全体で見ると1次産業も盛んで、北九州市は2次産業の歴史を持つ。また福岡市は3次産業が強い。異なる産業すべてがそろっているという総合力からして非常に大きな潜在力を持った地域だ。現代社会は情報が交差するところに人が集まるので、これらの地域多様性を情報システム化と融合して産業創出していけば、ハブになれる可能性が十分にある。問題は先ほどから指摘されている高度人材の流出だ。大企業が福岡にないと嘆いていても仕方ないので、こんなユニークなやりがいのある産業があるということを産学官が協力して発信し学生の関心を引くような活動をしなければならない。今後はIST、FAIS、ISITが連携し、率先してこれらの課題を解決していきたい。

**司会** 今後の活動と九州の企業に求められる取り組みを教えてください。



國武 豊喜氏

くにたけ・とよき 1958年九大工卒、62年米ベンシルベニア大大学院博士課程修了。74年九大教授、92年工学部長、99年理化学研究所フロンティア研究システム時空間機能材料研究グループディレクター、01年北九州市立大副学長、09年FAIS理事長。福岡県出身、79歳。  
主な受賞歴=78年高分子学会賞、90年日本化学会賞、99年紫綬褒章、01年文化院賞、07年文部科学大臣賞、同年文化功労者、14年文化勲章、15年京都賞。

**梶山** 行政と民間企業との橋渡しをする。大学で芽吹いたその先端技術をつかみ取り、実用化につなげるなどをテーマとする。水素社会実現の取り組みが良い例だが、福岡県はこの取り組みが上手だ。他県よりも早く取り組むことで注目される。大学のキャンパス内で水素ガスが自由に使える特区は世界でも九大くらい。福岡市と北九州市には水素ステーションも稼働した。ほかにもシリコンシーベルトプロジェクトではこれまでに起業家を含めて1万3000人近くの人材を育成したが、人材育成も大事だ。

### 生産性向上にはロボットが必要（國武 FAIS理事長）

**國武** 地域の公益財団法人はグローバル企業とローカル企業について考え方を分けなければならない。安川電機などのグローバル企業は世界を相手に戦うが、ローカル企業は地域に根ざしている。ローカル企業が生産性を高めるためにどうすべきかを考える必要がある。デジタル化、サービス化が進んだ今、世界企業の中に地域企業が食い込むためには相当な技術を持たなければならない。北部九州は自動車産業が活況だが、加工・組み立てのみで開発技術がない。デジタルデータをどう活用できるかなど、製造にサービスなどの付加価値を加える工夫が必要。生産性向上に関してはこれからの時代ロボットが必要になる。技術の向上は不可欠だ。

**新海** ユニークで独自性のある技術や製品を育てて発信していく必要がある。半導体や自動車、水素も大事だが、チャンスはその中あるいはその後にあるアイデアにあふれた複合材料や感性材料だ。今、世界では単純なモノづくりからなるメイド・イン・ジャパンで



梶山 千里氏

かじやま・ちさと 1964年九大工卒、69年米マサチューセッツ大大学院博士課程修了。84年九大教授、00年大学院工学研究院長、01年総長（第21代）、03年国立大学協会副会長、08年九大名誉教授・日本学生支援機構理事長、11年福岡女子大学理事長・学長、14年ふうおかIST理事長。福岡県出身、75歳。  
主な受賞歴=77年高分子学会賞、90年日本化学会学術賞、98年日本レオロジー学会賞、03年日本液晶学会論文賞、05年高分子科学功績賞。

はなく、ひと味付け加えたデザイン・イン・ジャパンに高い付加価値が生まれている。性能だけでなくデザイン、感性、情報を組み合わせなければ世界で生き残る技術、商品とはならない。福岡は適度な都市規模、情報伝達の速さ、アジアに近いなど好条件がそろっており、新感覚の商品のテスト環境に適している。北九州市にはモノづくり人材が、福岡には商業人材がいるが両者を有効につなぐ努力が不足している。

**梶山** 技術に加えて国際標準化の取り組みも地域を挙げてやるべきだ。世界に認められる国際標準化の努力は技術の次に必要だ。例えば、ふうおかIST3次元半導体研究センターが中心となり、産学官連携で開発した部品内蔵基盤の製造と品質管理に関する規格が、国際電気標準会議（IEC）において国際標準規格として成立した。スマートフォンやウェアラブル端末をより小型化するために必要な次世代の電子回路技術として期待している。  
**國武** モノのインターネット（IoT）を基盤にした「インダストリー 4.0」プロジェクトも結びつける。標準化しないと何も始まらない。

**司会** 独は国を、米国は企業を挙げて取り組んでいますか、日本はまだこれかです。

**梶山** 日本は零細企業に素晴らしい技術が多くあるが、この技術が大企業と結びついていない。  
**新海** IoTは付加価値を有効に産み出す手段として必要だが、コストをかけることができない零細企業には難しい。サポートも我々のミッションだ。

**司会** 人材の育成や定着についてのお考えはいかがですか。

**新海** 育てる、とどめる、招聘（しょうへい）するの三つのポイントがある。育てるは九大を中心に人材が育っている。とどめるに関しては、とどまった人材が満足できるよう地元企業や九大のOB、コーディネーターらが満足度を醸成する必要がある。最後の外部から人を呼び込むには魅力のあるハブや拠点作り、有能なリーダーを配置する。住環境の充実も必要だ。

**國武** 仕事のしやすさ、生活の豊かさも、人をとどめる大事な要素といえる。日本は人口減少社会に突入しており育成しても追いつかない。高齢者を含めて皆が上手に長く働く必要がある。責任ある仕事を持つことは生きがいにつながる。ただ労働現場を見ると矛盾や無駄な仕事も多く、作業環境をどう改善していくかも課題になる。産業医科大学では作業現場における人の動きなどを研究している。ロボットスーツを使った取り組みも、負担を軽くして労働寿命を長くできる。女性の活用も含めて広い意味での人材育成策を我々も考えなくてはならない。

**梶山** 人材育成に関して言えば、教育現場において感性を身につけさせる教育が欠けている。技術だけでなく倫理や哲学、創造性、リーダーシップなどを教えているだろうか。また教育の地産地消、具体的には福岡で育て福岡で使うという人材の地産地消を企業にも考えてもらいたい。また優秀な留学生の雇用についても福岡は関東や関西の企業ほど門戸が開かれていない。

**司会** 産学連携については。

### モノづくりの応用に創造教育を（梶山 ふうおかIST理事長）

**梶山** これまでの半導体や水素といった単発なものから、生活にまでどう落とし込むかが大事になる。モノづくりの応用が問われるわけだが、それを進めるための基礎として感性や創造教育が必要だ。ほかにも官庁や病院、学校など高度集中型の地域社会形成も課題になるが、地域づくりはFAIS、ISITと共同で取り組めばおもしろいものができる。

**國武** 福岡県、福岡市、北九州市とそれぞれの立場があるので連携はうまくやるべきだ。別組織によるメリットデメリット、緊張関係は否定しないが、これを理解した上で進めなければ結果はプラスに働かない。福岡市はコンテンツ産業が強く、北九州市はモノづくり産業が強い。連携するには情報のつながりが必要で、コンテンツとしてのインダストリー 4.0が重要になる。他地域を見てみれば筑後地域には農業、バイオ、醸造などの1次産業が豊富にある。各地の得意分野をつなぎ、ウィン-ウィンの関係を考える。我々3者は今そういう話題をフランクに話せる関係にある。

### 3法人ジョイントで地域を育成（新海 ISIT 研究所長）

**新海** 福岡や北部九州が単独で世界と戦うのは難しい。協力し合ってこそ大きな力を発揮するので、そのための仕組みづくりを具体的に進めている。ISIT、FAIS、ふうおかISTの頭文字をそれぞれ取った「Joint（ジョイント）IFF（イフ）」というオープンイノベーションの活動だ。すでに合同でセミナー開催などを始めた。トヨタ自動車が燃料電池自動車（FCV）の特許技術を開放したように、企業も大学もそれぞれの壁を取り払うようになる。組織もオープンイノベーションが求められる。現状は福岡県、福岡市、北九州市の連携・互助が十分でない。お互いがけん制し合っても、東京から見ればすべてが九州の一部にすぎない。まずは我々3法人が「ジョイント」して、ハブを構築し、地域を育てていこうではないか。

**司会** 福岡発の先端科学技術、必ず実現させましょう。

（敬称略）

※本記事は日刊工業新聞社の転載許諾を得て、一部加工して掲載致しております。



新海 征治氏

しんかい・せいじ 1967年九大工卒、72年同大学院博士課程修了、同年カリフォルニア大博士研究員。76年長崎大助教授、88年九大教授、08年名誉教授、同年筑城大教授、同年ISIT副理事長兼専務、09年九大高等研究院特別主幹教授。福岡県出身、71歳。  
主な受賞歴=78年日本化学会進歩賞、85年高分子学会賞、04年紫綬褒章、05年トムソン・ロイター引用栄誉賞（3年連続）、14年分子ロジック・分子センサー特別賞。



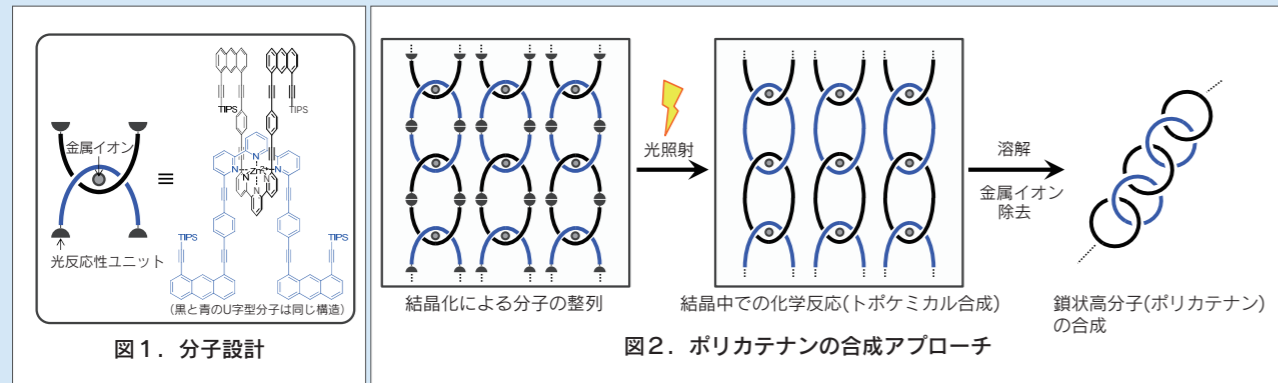
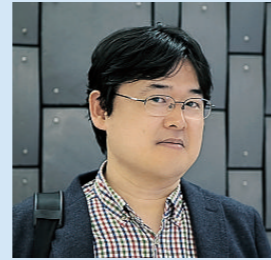
握手する梶山IST理事長、國武FAIS理事長、新海ISIT専務（左から）

## 2015年 旭硝子財団 助成研究発表会への参加

平成27年7月28日

ナノテク研究室の坂本純二研究員が、旭硝子財団 助成研究発表会で「環構造を繰り返す単位とする特異な高分子のトポケミカル合成」という演題で研究成果を発表しました。「トポケミカル合成」とはなかなか聞き慣れない言葉ですが、結晶中で起こる非常に規則正しい化学反応を利用した合成法のことです。本研究では、環状の分子が鎖の様に繋がった高分子「ポリカテナン」の世界で初めての化学合成にチャレンジしています。

具体的には、まず、光で反応するユニットを末端に導入したU字型の分子を設計・合成し、その分子同士を金属イオンを介して交差させたものを調製しました(図1)。次に調製した分子を結晶化し、反応する部位を対面させた状態で、光照射による化学反応(トポケミカル反応)を行いました(図2)。光照射後の結晶を溶解して金属イオンを除いたものを分析したところ、予想通りポリカテナンの形成が示唆され、現在、その詳細な構造解析を継続しているところです。本研究の合成アプローチは世界で初めてのポリカテナンの合成を可能とする手法として期待されます。



## 「BODIKワークショップ」始動

平成27年8月27日

福岡市、福岡アジア都市研究所(URC)、九州先端科学技術研究所(ISIT)の3者は、ビッグデータとオープンデータに関する研究会、「ビッグデータ&オープンデータ研究会in九州」略称:BODIK(BigData & OpenData Initiative in Kyushu)を立ち上げ活動中です。



### ■BODIKワークショップ

BODIKワークショップは、株式会社福岡ソフトリサーチパークさんとBODIK共催で開催しているイベントで、オープンデータを利用したアプリケーションを開発するための、LOD、RDF、SPARQLといった技術の講義や、実際にオープンデータを地図にマッピングするWebアプリケーション開発のハンズオンなどを体験することで、オープンデータについての理解を深めていくワークショップです。

第1回BODIKワークショップでは、九州大学のTrouve Antoine(トルヴェアントワン)氏と後藤孝行氏の2名を講師にお迎えして開催しました。参加者の皆様にはPC持ち込みで参加してもらい、RDF、LOD、語彙、SPARQL、セマンティックウェブの基本を学んだあと、SPARQLのクエリーを投げて、実際に手を動かしながらオープンデータに関連する技術を学んでもらいました。

第2回のBODIKワークショップは11月12日(木)に開催予定です。オープンデータの地図へのマッピングやデータからグラフを作成するなどデータビジュアライゼーションの基礎を学ぶ内容になっています。第1回に参加していなくても、参加できますので、ご興味がある方は是非ご参加ください。



## 新スタッフ紹介とインターンシップ学生紹介

### 4月



はじめまして。4月1日より総務広報部に着任いたしました高松和生と申します。

福岡市役所では経済の振興事業に長く関わってきました。

直近では、創業支援、就労支援の業務に携わりました。

研究所が行っている先端科学技術の研究開発事業を分りやすくお伝えすることは大事な事業と思っておりますので、頑張っていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



はじめまして。4月1日よりISITでお世話になっているナノテク研究室の坂本純二と申します。京都からマイイツ(ドイツ)、チューリッヒ(スイス)、大阪を経由して、満を持して上福いたしました。尊敬してやまない新海所長のもと、ナノテク研究でISITと地域社会のさらなる発展に貢献ができるよう、微力ながらも一意専心に努力する所存です。今度ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 7月



平山の後任として7月に着任した五所でございます。

それから2か月半、朝夕、7階まで150段の非常階段を上り下りして健脚に励む毎日です。

社会人生活は31年目を迎え14回目の異動になりますが、出向は今回が3回目です。企業文化の違いを肌で感じたこれまでの経験を最大限活用して、より良い組織づくりに尽力する所存です。

そのためには皆様のお力添えが不可欠となりますので、ご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。



はじめまして。7月1日付けで西日本シティ銀行より出向して参りました龍督茂と申します。ISITでは、総務広報部に属し、主に広報を担当しております。

広報は初めてですが、今年はISIT20周年で、記念行事が目白押しですので、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

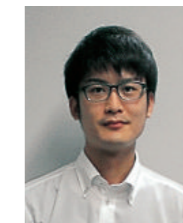
### 8月

#### 九州工業大学大学院より インターンシップ受入 (8月19日~9月18日)



はじめまして。(株)正興電機製作所から8月1日付けで研究企画部に着任しました手島 哲夫(てしま てつお)と申します。前職では、主にITシステムの営業やネットワーク構築関係の業務に従事しておりました。ISITでは、九州IT融合システム協議会(ES-Kyushu)

事務局の業務を務めさせていただいています。皆様には教えていただくことばかりで、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、1日でも早くお役に立てるように頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



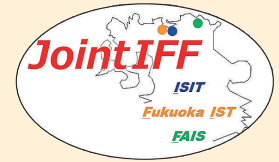
九州工業大学情報工学府 先端情報工学専攻修士課程1年の月岡祐太です。

8月の下旬から9月の中旬まで、ISITのプロジェクト推進部の下でインターンシップ学生としてお世話になりました。

実習内容は、所内のネットワークの構成や設定の変更、Webサーバの仮想環境移行などでした。所内で働く方々に影響を及ぼす作業も多く、緊張感を持って実習に臨みました。実習はもちろんのこと、所内の方々との交流も非常に勉強になりましたし、大学では得られないものを多く獲得出来たと思います。本当にありがとうございました。

## ISITからのお知らせ

ISITは、(公財)福岡県産業・科学技術財団(ふくおかIST)及び(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)と共同で、「モノづくりフェア2015」への共同出展及び合同セミナーを開催致します。モノづくりフェアの開催期間(平成27年10月14(水)日~15日(金))中、共同ブースで展示を行う他、15日(水)には中小企業向け金融支援と知財戦略等について共同でセミナーを開催しました。



福岡県下にある産業支援機関がそれぞれの長所を持ち寄り動き出すことになりました。3機関の英語頭文字を取り「IFF」として合同(Joint)で活動を始めます。

上記のJoint IFFの一環として、北九州市若松区の北九州学術研究都市で開催される「産学連携フェア」に於いてセミナーを開催致しました。

産学連携フェアは、北九州学術研究都市において、平成27年10月22日(木)、23日(金)両日にわたり開催されました。最終日10月23日(金)の13:00~15:00に「オープンデータの風を西から」と題して、ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州(BODIK)の主催で開催しました。

ISITの産学連携フェアでのセミナー開催は昨年度に続くものであり、同様に、ふくおかISTもセミナーを開催しました。



### ISITは平成27年12月に設立20周年を迎えます。

地域社会及び地域の皆様に支えられてISITは今年、設立20周年を迎えます。人間で言えば、はたちになる節目の年です。この20周年を記念し、11月5日(木)14:00より記念セミナーを開催致します。

理化学研究所より松本洋一郎理事及び理化学研究所グローバル研究クラスタ玉尾皓平クラスタ長及び有川節夫九州大学前総長を迎え、講演及びパネルディスカッションを行います。また、当研究所の研究分野で功績があった企業の表彰も併せて行います。

セミナー終了後は、ささやかではありますが、交流会も致しますので、ふるってご参加くださいますようお願いいたします。(交流会は賛助会員の方は無料ですが、それ以外の方は会費1,000円となりますので予めご了解ください)。詳しくはISITのホームページで案内します。詳細は、<http://www.isit.or.jp/event/2015/09/28/1872>でご確認下さい。

## 賛助会員《法人》ご紹介 ~ご入会ありがとうございました~

### ■ 生化学工業株式会社 様

東京都千代田区丸の内一丁目6-1  
丸の内センタービルディング10F  
TEL : 03-5220-8950 FAX : 03-5220-8951

### ■ 株式会社 新興精機 様

福岡市東区馬出1丁目18番3号  
TEL : 092-641-8451 FAX : 092-641-8786

### 賛助会員募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

会員特典  
**1**

ISITが主催する  
各種セミナーの  
参加料が無料

会員特典  
**2**

ISITが行う技術  
コンサルティングが  
割引料金

会員特典  
**3**

ISITが発行する  
刊行物の配布

会員特典  
**4**

ISITが保管する  
IT、ナノテク  
関係資料閲覧等

詳細はこちらまで! ISIT 総務広報部

Tel092-852-3450・Fax092-852-3455

E-mail [koryu@isit.or.jp](mailto:koryu@isit.or.jp)

ISITでは、定期交流会や各種セミナーの情報などを配信しております。  
メールマガジンのお申し込みはホームページからお手続きいただけます。

<http://www.isit.or.jp/about/publication/mailmagazine/>

### 発行

公益財団法人 九州先端科学技術研究所 ISIT  
Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies  
〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1-22

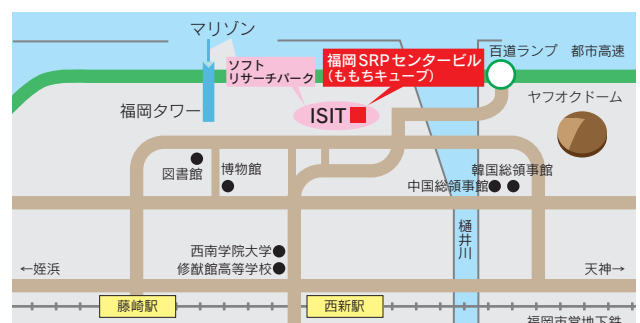
〈福岡SRPセンタービル(ももちキューブ)7F〉

Fukuoka SRP Center Building (Momochi Cube) 7F  
2-1-22, Momochihama, Sawara-ku, Fukuoka City 814-0001

●TEL 092-852-3450 ●FAX 092-852-3455

●URL:<http://www.isit.or.jp> ●E-mail:[koryu@isit.or.jp](mailto:koryu@isit.or.jp)

●制作: 株式会社西日本高速印刷



九州の科学技術をリードする  
研究拠点として



ISIT

公益財団法人

# 九州先端科学技術研究所(ISIT)

## 賛助会員のご案内

お問い合わせ、入会手続きは、  
ISIT総務広報部まで  
([isit-soumukouhou@isit.or.jp](mailto:isit-soumukouhou@isit.or.jp))

### ● 賛助会員の特典

1. ISITが主催する定期交流会、技術セミナー等に無料で参加できます。
2. ISITが行う先端科学技術（システム情報技術、ナノテクノロジーなど）に関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
3. ISITが発行する広報誌「What IS IT?」（年4回）や活動報告書等の刊行物の配布が受けられます。
4. ISITが保管する先端科学技術（システム情報技術、ナノテクノロジーなど）関係資料等の閲覧ができます。
5. ISITコミュニティスペースや会議室で賛助会員限定の設備・備品が利用できます。

● 賛助会費（年会費） 法人会員：10 6万円、個人会員：10 1万円

## 賛助会員ご加入について

公益財団法人九州先端科学技術研究所（以下「ISIT」という。）の事業目的に賛同していただける方（団体、企業、個人等）に賛助会員としてご加入いただいています。

### 1 賛助会員の特典

- ① ISITが主催する定期交流会、技術セミナー等に無料で参加できます。
- ② ISITが行う先端科学技術（システム情報技術、ナノテクノロジーなど）に関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
- ③ ISITが発行する広報誌「What IS IT?」（季刊＝年4回）や活動報告書（年次）等の刊行物の配布が受けられます。
- ④ ISITが保管する先端科学技術（システム情報技術、ナノテクノロジーなど）関係資料等の閲覧ができます。
- ⑤ ISITコミュニティスペースや会議室で賛助会員限定の設備・備品が利用できます。

### 2 賛助会費

年会費は、法人会員1口6万円、個人会員1口1万円とし、毎年度1口以上納入していただくことになります。

ただし、加入時期が年度後半の場合は、当該年度の賛助会費は半額となります。

### 3 賛助会員資格

当該年度とし、以後、退会の申し出がない場合は自動的に継続します。

### 4 入会の手続き

賛助会員入会申込書(様式第1号)に必要事項をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください。(申込書は郵送にてお願いします。)

なお、登録事項に変更が発生した場合は、賛助会員変更届(様式第2号)によりお届けください。

#### 【入会申込先・お問合せ先】

公益財団法人九州先端科学技術研究所 総務広報部  
〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号  
福岡SRPセンタービル7階  
Tel 092-852-3450 Fax 092-852-3455  
E-mail: isit-soumukouhou@isit.or.jp

#### 【賛助会費振込】

賛助会費は、専用の「振込依頼書」にてお振り込みをお願いします。

「振込依頼書」をお持ちでない場合は、郵送しますのでご連絡ください。

(参考)

研究所のホームページ <http://www.isit.or.jp/>

賛助会員のページ <http://www.isit.or.jp/about/supporter/>

(平成27年4月)

様式第1号

# 賛助会員入会申込書

公益財団法人九州先端科学技術研究所 御中

貴研究所の事業目的に賛同し、賛助会員として入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな			
氏名又は団体名			印
団体の場合 代表者氏名			
住所	〒		
電話番号		FAX番号	
担当部・課名			
担当者名		電話番号	
申込口数	1. 法人 <input type="checkbox"/>		2. 個人 <input type="checkbox"/>
賛助会費振込先	1. 福岡銀行(西新町支店)普通 1791051 2. 西日本シティ銀行(シーサイドももち出張所)普通 0133919		
担当者 メールアドレス	定期交流会等のご案内を差し上げますので必ずご記入ください。		
Web ページ URL	http:// _____ 貴研究所の賛助会員ページに上記ページをリンクすることに 1. 同意します 2. 同意しません		

※お願い 氏名又は団体名は正式名称をご記入下さい。